



防水材料や技術の開発を通して 建物の長寿命化を支える

日新工業株式会社は、1922年に佐久間建材工業所として足立区で創業。日本で初めて改質アスファルトルーフィングやカラールーフィングを開発するなど、建築防水メーカーとして技術革新を続けながら業界を牽引してきました。現在は、ビルやマンションなどの屋上（陸屋根）に使用されるアスファルト防水やシート防水、塗膜防水から、戸建住宅の金属や瓦などの勾配屋根に用いる下葺材まで、多種多様な防水工法・材料を取り扱っています。建築防水の歴史や現在注力している製品について、相臺志浩社長にうかがいました。

国産防水材の開発に挑戦

当社は1922（大正11）年に初代社長の佐久間栄吉が創業し、今年102年目になります。創業時から防水材を製造していましたが、当時主要な防水材だったアスファルトルーフィングは欧米の輸入品が主流で、国産品はトタン屋根程度にしか使われていませんでした。創業者の佐久間は輸入品を超えるルーフィングの開発に情熱を注ぎ、1930年頃には帝国議会議事堂（現在の国会議事堂）に採用されるまでに躍進。次第に国産品が本格的に使用されるようになりました。その後、戦時中の企業整備令で5社が合併し、1943（昭和18）年に日新工業が設立されました。

1956年には現在では一般的になっている改質アスファルト防水の原型となる改質アスファルトルーフィング「メルタンルーフィング」を日本で初めて販売。現在も改良を重ねながら使われ続けているロングセラー製品です。

日本は四季があり寒暖差があるため、防水材には高いレベルが要求されます。日本の防水技術が世界トップレベルなのは先人たちが築き上げてきた技術力の賜物です。

耐用年数がアップした

「アスリッドコート」「アルバエース」

2021年に発売したビルの屋上防水「アスリッドコート」は、従来のアスファルトの耐久性を引き継ぎながら、より高い強度と伸びのある加熱型高耐久改質アスファルト塗膜防水材です。



「アスリッドコート」引張試験



乾式浮床仕上げ工法「PFシステム」

これまでは防水材を3、4層貼り重ねていましたが、それを1～2層で対応可能にし、耐用年数も大きく改善。施工工程を大幅に短縮できるのもメリットのひとつです。

戸建住宅の屋根下葺材では、高性能で耐久性に優れたアスファルトルーフィング「アルバエース」を展開。940と呼ばれる従来の材料が耐用年数15年、改質アスファルトルーフィングが30年なのに対し、「アルバエース」は60年と大幅にアップしています。

屋上の防水層に直接設置可能な 浮き床システム

防水で培った技術を活かして、屋上活用材にも力を入れています。乾式浮床仕上げ工法「PFシステム」は、屋上やルーフバルコニーなどでアスファルト

ト防水の上に直に支持脚を立てて、その上にパネルを敷き詰めるシステムです。段差のある複雑な形状の場所にも設置でき、簡単に取り外すことができるためメンテナンス性にも優れています。専用のパネルもコンクリート系や木質系などバリエーションがあり、セットで販売しています。

また、当社は「水コン」という愛称で親しまれているアイデアコンペ「日新工業建築設計競技」を1974年から行っており、受賞者には現在活躍されている建築家の方も多くいらっしゃいます。建築業界への感謝と、若手建築家の方々に防水材料を知っていただくために今後も続けていきたいです。

建物の長寿命化が求められる今、これからも防水を通して社会に貢献していきます。



日新工業株式会社

<https://www.nishinkogyo.co.jp>

建築・土木の防水や戸建て住宅の下葺材など、各種防水工法・材料を開発・販売。環境対策にも有効な浮床システムや屋上緑化システム、遮熱塗料など屋根活用材も取り扱っている。

本社 〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4 TEL：03-3882-2424（代表） FAX：03-3882-2450
全国8カ所に営業部隊があり、埼玉県春日部市と山形県山形市に工場がある。